



VOL. 19 No 2 University of the Ryukyus Library Bulletin. 1986.6.2

生物資源開発技術

—世界の動向と沖縄の役割—

図書館長 國府田 佳弘

1. 生物資源の持つ意義

有限な鉱物資源に代わって、環境と調和して使えば再生可能な生物資源の効果的な利用の必要性については広く認識されており、我国でもバイオインダストリーが着実に進展し、またこれを進める企業の意欲も強烈で広範である。例えば、植物資源の利用開発に関するシンポジウムに、従来関係のなかった分野の大手の企業が多数集まるのはその例であろう。生物資源がどのような使われ方をされようとしているかを大きく分けると、①炭素源として、②新しい機能を求めて、③食糧源の増大を目指しての三つとなる。①はバイオマスという言葉が石油ショックを契機に一般社会で

目 次	
生物資源開発技術 國府田佳弘	1
国連寄託図書館 (United Nations Depository Library) に指定される	5
琉球大学附属図書館の中央館を「志喜屋記念図書館」と呼称することについて	5
国立大学図書館協議会賞の受賞決まる!	6
図書館業務電算化通信 2	7
資料紹介「平良文太郎文庫」リスト(2)	10
大型コレクションの利用案内について	11
附属図書館運営委員会委員	13
附属図書館事務組織の変更について	14
担当業務の変更について	15
ブラウジングコーナー	15
琉球大学附属図書館利用規程	16
図書館事情	19
医学部分館コーナー	21

も認識されてきたことでも端的に示されるように、エネルギーを生物あるいは生物を利用して得ようとするものであり、またかつて生物崩潰が可能なプラスチックの開発等に見られたように新しい工業原料を得ようとするもので、このいずれも従来炭素源を石油から得てきたものを生物体からもこれを得て原料供給構造を再構築しようとするものである。②はインシュリンやインターフェロンにみられるような医薬等生理活性物質、あるいはバイオリアクタや生体模倣技術さらにはバイオチップのように従来の技術では得られない機能を持つ材料の生産あるいは生産効率の増大を目指すものである。③はある意味では最も重要な分野で、人類の生存にかかわるものであり「種子を制するのは世界を制する」という言葉に端的に表れている。

2. 外国、特に東南アジアのバイオテクノロジーに係わる動向

以上のいずれにおいても、その技術開発のカギを握るのはバイオテクノロジーであり、バイオインダストリーの主導権を握るのはこれを手中にしている者である。そこでバイオテクノロジーについての世界の動向を把握しておく必要があるが、その再先端を行く米国の動向については多くの情報があり、また我国の技術が日々米国のそれと差を詰めていることは先日の“バイオ85' ジャパン”（国際会議）の報道等からも同われるとおりで、ここで論じるまでもない。ここでは沖縄とアジアという観点から東南アジア諸国の情勢についてインドネシアとタイを例にとって紹介する。

両国はその技術水準に多少の差はあるものの、その実態は研究者の絶対数の不足、研究費の不足とバイオテクノロジー推進は、むしろ今後の努力にかかっている。両国にとって現在最大の関心事はバイオテクノロジーの産業化への模索にあり、当面すぐ利用できる技術に関心を持っている。すなわちバイオをテコにした工業化への途の模索である。一方両国ともバイオテクノロジー発展における遺伝資源の重要性に対する認識は十分に持っており、ジーンバンクの拡充も検討されている。すなわちバイオテクノロジー展開に伴い、既存のジーンバンクの活用、さらにはその機能の拡大についても多大の関心がある。したがって、例えばタイが持っているバイオテクノロジーセンタ構想においてはジーンバンクの新設よりも既存の施設の活用と拡大が中心となろう。両国のおかれている自然条件が異なるので、バイオテクノロジーの対象となる生物資源の内容もやや異なる。共通しているのは例えば経済作物としての関心である。インドネシアはたとえばココ、オイルパーム等、タイは例えば果樹、キャッサバ等である。

3. 生物資源の南への依存と協力

生物資源の最大のものは現在のところ食糧であるので、これを例にとってみても我県はその大半は外国に依存しており、しかもその中で米国一国に依存しているところが大きい。これは国の安全という面からいっても不都合なばかりでなく、地球の裏側から運んでくる経費も国民の負担となっている。一方、日本の近く、特に沖縄の目の前にある東南アジア諸国は食糧源に限らず、その気象特性を生かせる豊富な資源の潜在生産能力を持っており、今後我国としてはこれらの諸国に依存するところがますます大きくなろう。その際に資源収奪の誹りを受けることなく、それらの国々でも十分な経済効果が得られ、しかも環境を保全できる技術を開発し、その技術を移転し、両者がとも

に利益を受けられる態勢をとっておかなければならない。特に東南アジア諸国が望んでいる技術はエレクトロニクス、バイオテクノロジーであり、その周辺技術を含めて資源を開発する協力態勢が求められる。

しかし、ここで考えておかなければならないのは、およそ技術というものは、それを適用すべき地域の自然・経済・社会的条件、さらには歴史的背景すらも考慮しなければならないものである。移転すべき技術の開発の場、実証の場として類似の地域が必要なのである。

このような意味から日本の地理的特徴を見てみると、北は宗谷岬（北緯45度30分）から南は波照間島（北緯24度30分）と幅広く、先進国でこれだけの広範にわたっているのは北半球では米国と日本だけで、生物資源、特に植物資源の保存と関連技術の開発には恵まれた国であるとともにその国際的責任も大きい。その中でも、我国が東南アジア諸国との共同開発を考える時には、我国の最南端である沖縄の責任は重く、またこれを認識して、単に地域の技術としてではなく国際的な技術を開発するという意識を持って進めて行く必要がある。

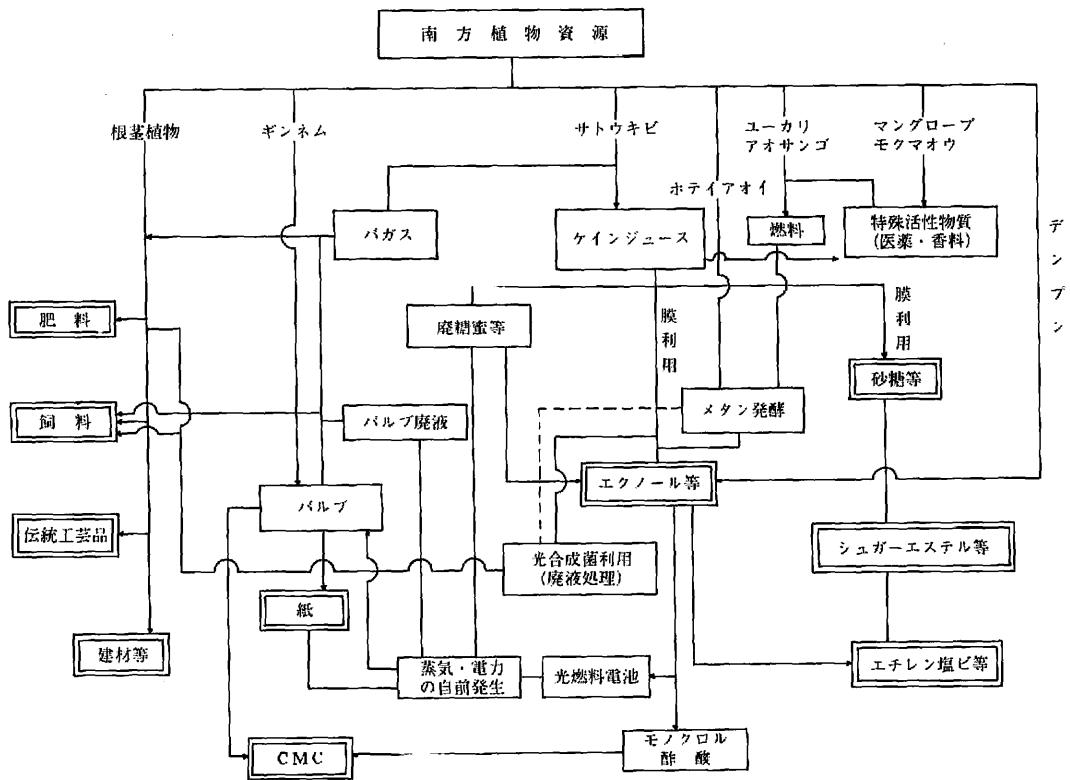
4. 生物資源開発のシステム事例

生物資源の開発に際しては資源の涸渇や環境破壊を招かないよう十分な配慮をすべきことは既に広く論じられているが、そればかりでなく、他産業と有機的に結合した総合システムとして開発する必要がある。その事例として沖縄で提唱されているサトウキビの総合利用システムの例を以下に紹介する。

国際的な糖価の下落でいずれの地域でもサトウキビ栽培は危機に瀕しており、我国でもコメ同様大幅な補助を得て成立している。しかし、サトウキビはC₄植物であり、そのエネルギー代謝効率が高く、しかもその栽培体制は確立しており、これを見捨てることはできない。問題はサトウキビを蔗糖だけの原料として考えるところにある。サトウキビからは様々な付加価値の高い物質が得られることが知られており、これらの物質をバラバラに生産するのでは必ずしも有効でなく、他産業をも含めたトータルシステムとして構成する必要がある。その例が下図に示すものである。サトウキビは世界的にはジャガイモに次いで第6位の作物であり、このシステムが実現されればその波及効果は大きく、沖縄にとっては地域の有力な産業として、同時に世界的に見ればその技術実証の場とするこのシステムを開発することの意義は大きい。

サトウキビに限らず、今後生物資源開発および実証の場として沖縄の役割は重大であるが、単に議論だけでなく、ささやかなものでも実用化の技術として積み上げて行くべき段階にきている。

サトウキビを中心とした未利用植物の 多目的高度利用システム



国連寄託図書館 (United Nations Depository Library) に指定される

昭和61年4月7日付ハマースホルド図書館長からの書簡で附属図書館が国連寄託図書館に指定された旨の連絡がありました。

これは、昨年7月以来取り組んできたもので、今回の指定 (Full Deposit) を受けたことにより、議事録等公式記録類、条約集、国際統計等調査、報告書類など国連発行の全刊行物が継続入手できるようになります。従来より積極的に収集してきましたアジア関係、OECD、UNESCO及びEC (昨年11月に指定) に国連資料が加わることになり、国際資料の強化充実が図られることになった。

琉球大学附属図書館の中央館を「志喜屋記念図書館」 と呼称することについて

昭和60年4月16日開催の「移転完了記念祝賀行事企画委員会」において、首里キャンパス時代からの歴史的連続性を示すために、附属図書館を首里キャンパス時代と同様「志喜屋記念図書館」と呼称することについて答申がなされた。

首里キャンパスにあった志喜屋記念図書館は、初代学長志喜屋孝信博士の功績を讃えるために設立されたものであった。その設立には開学記念文庫基金 (有志者からの寄附金)、また1鍵1ドルの景品付宝くじ22万本を発行した益金や、海外同胞の寄附金等、資金集めに関係者は並々ならぬ苦心をした由である。設立後はこのような経緯から、大学図書館としてだけでなく、一般市民にも公開した図書館でもあった。現在でもその伝統は受け継がれ、地域住民との関りが深く、学外者の利用が多い。この由緒ある「志喜屋記念図書館」の名称を新図書館に引き継ぎ、多くの人々に「志喜屋記念図書館」と呼称されるようにとの願いをこめて、図書館正面玄関に、次に掲げるような文面の銘板が設置された。

銘板設置の経緯

昭和60年4月16日開催の「移転完了記念祝賀行事企画委員会」で附属図書館の呼称について次のような答申がなされた。

旧キャンパス時代からの歴史的連続性を示すために、附属図書館を首里キャンパス時代と同様「志喜屋記念図書館」と呼称する。

昭和60年9月19日開催の「部局長会」で附属図書館を「志喜屋記念図書館」と呼称するための申し合せが了承された。

60年9月24日開催の「評議会」で報告了承された。

昭和60年10月25日 安次富教授 (教育学部) に銘板の製作に伴う指導及び助言を依頼。

昭和61年3月15日 銘板の取付け

昭和61年3月27日 銘板の披露会

出席者：嘉陽安春御夫妻 (夫人は志喜屋先生の令嬢)、学長、図書館長、安次富長昭教授、図書館職員5名。



銘板の披露を終えて（左より東江学長・嘉陽御夫妻・国府田館長・安次富教授）

志喜屋記念図書館

琉球大学初代学長故志喜屋孝信博士(1884-1955)の功績を讃え、その功績を永く後世に伝えるため、首里キャンパスに建設されていた図書館の名称を継承し、本館を志喜屋記念図書館と呼称する。

琉球大学移転完了記念 昭和60年9月19日

琉球大学長

SHIKIYA MEMORIAL LIBRARY

In commemoration of the great contribution of Dr. Koshin Shikiya (1884-1955), first President of the University of the Ryukyus, the library at the Shuri campus was named the Shikiya Memorial Library.

In recognition of the value of this heritage, the library of the Nishihara campus is informally known by the same name.

国立大学図書館協議会賞の受賞決まる！

昭和61年度国立大学図書館協議会賞の受賞決定通知（昭和61年5月20日付）が5月30日に届いた。このことは、瀬名波榮喜前館長により沖縄関係資料目録の編纂に対する図書館活動の業績として推薦されたものが認められ、この度の受賞となった。

当館では歴代館長の指導のもと、平良恵仁前事務長を中心に琉球大学のユニークなコレクションとして、永年にわたり沖縄関係資料の収集に鋭意努力し、蓄積されてきたもので、これらの資料の詳細な目録編成に対する新城安善整理係長を中心とする多くの職員の尽力が評価されたものである。

〔お知らせ〕

夏期休暇中の図書館利用について（7月1日（火）～8月30日（土））

開館時間

月～金 8:30～17:00
土 8:30～12:30（日曜・際は閉館）

長期貸出

期間：6月21日（土）～8月30日（土）
返却日：9月12日（金）

〈図書館業務電算化通信 No.2〉

FAIRSによる雑誌情報の検索サービスの提供について

鶴岡 知昭

附属図書館では、昭和57年度より過去4年間にわたり、館内業務の電算化を進めて利用者へのサービス向上に努めてきましたが、この夏には、情報処理センターの機器の再編成に伴い、図書館用ソフトウェアパッケージILISを導入することになりました。ILISは大学図書館や大規模な公共図書館向きに開発された図書館業務機械化のためのソフトウェアパッケージ群で、図書受入、雑誌受入、目録作成、目録検索、閲覧の各パッケージからなっています。

一方、こうした電算化によってもたらされた大量の情報が蓄積されるようになってきたのですが、逆に、多くの情報の中から、自分の希望する情報のみを得るのは容易ではなくなってきました。館内においては、雑誌情報の検索には、これらの業務用のシステムを利用することができるのですが、誰でも自由に、利用できるわけではありません。図書、和雑誌、洋雑誌とも、すでに冊子体目録としても利用していただいています。これを情報処理センターの情報検索システムにのせて利用することができれば、キーワードやその他の情報を利用した、多様な条件検索が可能となり、情報処理センターの利用者であれば誰でも、学内全域からこのサービスを受けることができるようになります。今回、学術情報センターに蓄積している雑誌情報のうち、琉球大学の所蔵分を、情報処理センターの大型計算機上に準備することができましたので、試験的に公開することになりました。

現在、詳しい利用方法のマニュアル等を準備している最中です。当面、すでに筑波大学のUTOPIAやFAIRSの利用経験がある人は、次のようにして、和雑誌と洋雑誌の検索サービスを開始することができます。

READY

IRS

ENTER DB NAME = ZASSIまたはMAGAZINE

(つるおか ともあき：情報処理センター講師)

61年度国立学校事務電算化基幹要員研修会(A)に参加して

本郷 清次郎

5月13日から22日まで、筑波大学山中湖共同研修所、国立青少年センター、文部省の3会場で実施された文部省主催の上記研修に参加した。就任後1年未満の情報処理系の係長を対象とし、国立学校における事務電算化を推進するための基幹要員の電算処理その他の情報処理に関する資質の向

上を図ることを目的とする研修であった。

研修内容は、(1)事務電算化の動向、(2)電算機概論、(3)プログラミング、(4)プログラミング演習、(5)オペレーティングシステム、(6)事例紹介（共済組合短期給付事務システム、予算執行管理事務システム、教務事務システム）、(7)システム分析設計、(8)システム設計演習、(9)データ通信、(10)電算機の運用管理、(11)電算機実習などであった。

10日間という長い研修であったが、学ぶことが多く、かつ楽しい研修であった。

特に、COBOLプログラミングやフローチャートなどの標準技法ということについて、その意義や方法について知り、更にそれが大きな実効を持っていることを知ったこと、また電算機の運用管理に関して実例を示されながら説明を受けることができたことなどは大変に有意義であった。

これらの講義に疲れ、目を窓の外にやるとそこには富士山が、あるいは霧の流れる山中湖が見える、という中々に素晴らしい環境を満喫したり、また日曜日には歩いて山中湖を一周したことなど楽しい思い出もある。加えて北は北海道教育大学から南は鹿児島高専に至るまで、新たに40人近い知己を得たことも大きな収穫であった。

(ほんごう せいじろう 学術情報係長)

図書館業務電算化日録

昭和61年3月～5月

- 3月6日(木) 富士通との打合せ
- 7日(金) 図書館電算システム運用ワーキング(第7回)
- 15日(土) 富士通との打合せ
- 19日(水) 図書館電算システム運用ワーキング(第8回)
- 4月1日(火) 学術情報係発足
- 2日(水) 情報処理センター電算機パスワード切替え
- 3日(木) NTTへ第2種パケット交換サービス申込み
- 9日(水) 学術情報センターシステムとの接続手順説明(医学分館)
ワーキンググループ電算班会議(第1回)
- 10日(木) 富士通との打合せ(第1回)
- 17日(木) 富士通との打合せ(第2回)
NTT第2種パケット交換サービスによるJOIS接続完了
- 21日(月) 利用者マスター(学生)年次更新
- 22日(火) 閲覧サブグループ打合せ(第1回)
- 23日(水) 富士通との打合せ(第3回)
- 24日(木) 雑誌受入サブグループ打合せ(第1回)

- 25日(金) 雑誌受入サブグループ打合せ(第2回)
28日(月) ワーキンググループ電算班会議(第2回)
30日(水) 富士通との打合せ(第4回)
5月2日(金) 雑誌受入サブグループ打合せ(第3回)
目録作成サブグループ打合せ(第1回)
6日(火) 閲覧サブグループ打合せ(第2回)
目録作成サブグループ打合せ(第3回)
7日(水) 雑誌受入サブグループ打合せ(第4回)
8日(木) 閲覧サブグループ打合せ(第3回)
9日(金) 目録検索サブグループ打合せ(第1回)
12日(月) 雑誌受入サブグループ打合せ(第5回)
学術情報センターへ目録所在情報サービス利用申請
本郷学術情報係長、国立学校事務電算化基幹要員研修会へ参加(山中湖町/東京、
22日まで)
13日(火) 閲覧サブグループ打合せ(第4回)
14日(水) 雑誌受入サブグループ打合せ(第6回)
15日(木) ワーキンググループ電算班会議(第3回)
16日(金) 富士通との打合せ(第5回)
19日(月) 雑誌受入サブグループ打合せ(第7回)
21日(水) 雑誌受入サブグループ打合せ(第8回)
23日(金) 雑誌受入サブグループ打合せ(第9回)
27日(火) 閲覧サブグループ打合せ(第5回)
FAIRS 試作デモンストレーション
28日(水) ワーキンググループ電算班会議(第4回)
29日(木) 富士通との打合せ(第6回)

「平良文太郎文庫」リスト〈2〉

- | | | | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| Tennyson, Alfred | 931-TE | Tennyson, Alfred | 931-TE |
| Ballads and other poems. London, Macmillan, 1892. 347p. 18cm. | | Poems I. London, Macmillan. 1892. 313p. 18cm. | |
| Tennyson, Alfred | 931-TE | Tennyson, Alfred | 931-TE |
| Becket and other plays. London, Macmillan, 1888. 428p. 18cm. | | Poems II. London, Macmillan, 1892. 317p. 18cm. | |
| Steinbeck, John | 938-ST | Dickens, Chares | 933-DIC |
| The Complete works of John Steinbeck, vol.1-20, ed. by Yasuo Hashiguchi. Kyoto, Rinsen Book, 1985. 20v. 22cm. | | The Postumous papers of the Pickwick Club. London. Nottingham Court Press, 1979. xiv. 609p. 22cm. | |
| Emerson, Ralph Waldo | 133.92-EM | Tennyson, Alfred | 931-TE |
| The Complete works of Ralf Waldo Emerson, v.1-12. Boston, Houghton Mifflin, c1903-1917. 12v | | The Princess and Maud. London, Macmillan, 1892. 230p. 18cm. | |
| Tennys son, Alfred | 931-TE | Tennyson, Alfred | 931-TE |
| Demeter and other poems. London, Macmillan, 1893. 367p. 18cm. | | Queen Mary and Harold. London, Macmillan, 1892. 327p. 18cm. | |
| Tennyson, Alfred | 931-TE | Levaeo, Ronald | 930.2-LE |
| Enoch Arden and in memoriam. London. Macmillan, 1982. 184p. 18cm. | | Renaissance minds their fictions. Berkeley, Univ. of California Press, 1985. xxiv, 446p. 22cm. | |
| Capellan, Angel | 930.28-CA | Pope, Alexander | 938-PO |
| Hemingway and the Hispanic world. Ann Arbor, UMI Research Press. c1985. xvi, 327p. 24cm. | | The Works of Alexander Pope; including sevrall hundred unpublished letters, and other new materials, v.1-10. new ed. London, John Murray, 1871-1889. 10v. 23cm. | |
| Tennyson, Alfred | 931-TE | Dryden, John | 938-DR |
| Idylls of the king. London, Macmillan, 1891. 421p. 18cm. | | The Works of John Dryden, v.1-18 Edinburgh, T. and A. Constable, 1882-1893. 18. 24cm. | |
| Arnold, Matthew | 938-AR | | |
| The Works of Matthew Arnold, v.1-15. de Luxe ed. New York, AMS Press. 1970. 15v. 22cm. | | | |

大型コレクションの利用案内について

この度文部省から、中国方志叢書第三期（台湾地区）について昭和60年度全国共同利用図書購入費の配分を受け、下記のとおり整理が完了しましたので、ご利用下さるようご案内します。

中国方志叢書 臺灣地区 第1號～第102號

臺北 成文出版社 中華民國72～73 (1983～1984)

内容：

第1號	臺灣省	臺灣府志	1～4	第25號	〃	新竹縣志初稿	(全)
第2號	〃	增修臺灣府志	1～5	第26號	〃	苗栗縣志	(全)
第3號	〃	重修福建臺灣府志	1～4	第27號	〃	樹杞林志	(全)
第4號	〃	重修臺灣府志	1～6	第28號	臺灣省	苑裡志	(全)
第5號	〃	續修臺灣府志	1～6	第29號	〃	臺灣采訪冊	1～3
第6號	〃	臺灣通志稿	1～10	第30號	〃	新竹縣采訪冊	1～3
第7號	〃	諸羅縣志	1～3	第31號	〃	彰化節孝冊	(全)
第8號	〃	臺灣縣志	1～3	第32號	〃	雲林縣采訪冊	1～2
第9號	〃	重修臺灣縣志	1～3	第33號	〃	鳳山縣采訪冊	1～3
第10號	〃	續修臺灣縣志	1～4	第34號	〃	臺東州采訪修志冊	(全)
第11號	〃	續修臺灣縣志	1～4	第35號	〃	嘉義管内打貓各堡采訪冊	(全)
第12號	〃	續修臺灣縣志	1～2	第36號	〃	安平縣雜記	(全)
第13號	〃	鳳山縣志	1～3	第37號	〃	臺灣府賦役冊	(全)
第14號	〃	重修鳳山縣志	1～4	第38號	〃	淡新鳳三縣簡明總括圖冊	(全)
第15號	〃	淡水廳志	1～4	第39號	〃	新竹縣制度考	(全)
第16號	〃	彰化縣志	1～4	第40號	〃	流求與鷄籠山	(全)
第17號	〃	澎湖紀略	1～3	第41號	〃	康熙福建通志臺灣府	(全)
第18號	〃	澎湖續編	(全)	第42號	〃	臺灣府職方彙編	(全)
第19號	〃	澎湖廳志稿	1～3	第43號	〃	道光福建通志臺灣府	(1～2)
第20號	〃	澎湖廳志	1～3	第44號	〃	民國福建通志臺灣資料選	1～2
第21號	〃	噶瑪蘭志略	(全)	第45號	〃	臺灣紀略彙刊	(全)
第22號	〃	噶瑪蘭廳志續補	(全)	第46號	〃	裨海紀遊	(全)
第23號	〃	噶瑪蘭廳志	1～3	第47號	〃	臺海使槎錄	1～3
第24號	〃	恒春縣志	1～2	第48號	〃	臺海見聞錄	(全)

第49號	〃	小琉球漫誌 (全)	第76號	〃	嘉義縣志 1~9
第50號	〃	海東札記 (全)	第77號	〃	臺南市志 1~16
第51號	〃	臺灣志略 (全)	第78號	〃	臺南縣志 1~5
第52號	〃	東槎紀略 (全)	第79號	臺灣省	高雄市志 1~9
第53號	〃	東瀛識略 (全)	第80號	〃	高雄縣志稿 1~9
第54號	〃	臺灣紀事 (全)	第81號	〃	屏東縣志 1~6
第55號	臺灣省	東瀛紀事 (全)	第82號	〃	宜蘭縣志 1~10
第56號	〃	臺陽見聞錄 1~3	第83號	〃	花蓮縣志 1~9
第57號	〃	臺灣雜記彙刊 (全)	第84號	〃	臺東縣志 1~3
第58號	〃	臺灣府輿圖纂要 1~3	第85號	〃	澎湖縣誌 1~4
第59號	〃	臺灣輿圖並說 (全)	第86號	〃	臺灣省通志館館刊 (全)
第60號	〃	臺灣地輿總圖 (全)	第87號	〃	文獻專刊 1~4
第61號	〃	海國聞見錄 (全)	第88號	〃	臺灣文獻 1~14
第62號	〃	臺灣理蕃古文書 (全)	第89號	臺北市	臺北文物 1~10
第63號	〃	臺灣通史 1~3	第90號	〃	臺北文獻 1~5
第64號	〃	臺灣省通志稿 1~40	第91號	臺灣省	臺北縣文獻叢輯 1~2
第65號	〃	臺北市志 1~12	第92號	〃	新竹文獻會通訊 (全)
第66號	〃	臺北縣志 1~12	第93號	〃	苗中彰三縣文獻 (全)
第67號	〃	基隆市志 1~12	第94號	臺灣省	雲林文獻 1~2
第68號	〃	桃園縣志 1~10	第95號	〃	嘉義文獻 1~6
第69號	〃	新竹縣志 1~9	第96號	〃	臺南文化 (舊刊) 1~8
第70號	〃	苗栗縣志 1~12	第97號	〃	臺南文化 (新刊) 1~6.
第71號	〃	臺中市志 1~9	第98號	〃	南瀛文獻 1~5
第72號	〃	臺中縣志稿・大事記 (全)	第99號	高雄市	高市文物 1~2
第73號	〃	彰化縣志稿 1~5	第100號	臺灣省	宜蘭文獻 (全)
第74號	〃	南投縣志稿 1~12	第101號	〃	花蓮文獻 (全)
第75號	〃	雲林縣志稿 1~18	第102號	〃	臺東文獻 (全)

附属図書館運営委員会委員

昭和61年4月1日付で附属図書館運営委員会委員が大巾に変わりました。

委員は次のとおりです。

昭和61年5月1日現在

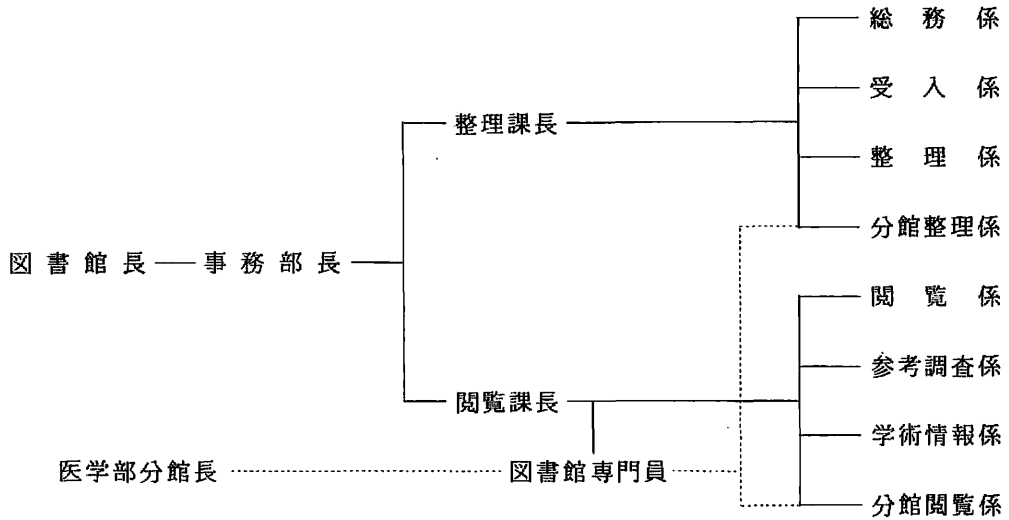
部 局	職 名	専 攻	氏 名	任 期
図 書 館	館 長	農 産 施設工学	國府田 佳 弘	自 昭和60年10月1日 至 昭和62年9月30日
医学部 分館	分館長	生理学講座 (第一教室)	金 城 清 勝	自 昭和61年4月1日 至 昭和63年3月31日
法 文 学 部	助 教 授	中国文学及 び琉球文学	上 里 賢 一	自 昭和61年4月1日 至 昭和63年3月31日
"	助 教 授	民 法	柳 勝 司	自 昭和60年4月1日 至 昭和62年3月31日
教 育 学 部	教 授	家庭管理	新 垣 都 代 子	自 昭和61年4月1日 至 昭和63年3月31日
"	教 授	歴 史 学	西 里 喜 行	自 昭和60年4月1日 至 昭和62年3月31日
理 学 部	助 教 授	力 学	神 里 常 雄	自 昭和61年4月1日 至 昭和63年3月31日
"	助 教 授	解析学及び 応用数学	西白保 敏 彦	自 昭和60年4月1日 至 昭和62年3月31日
医 学 部	教 授	基礎保健学 講 座	加 納 隆 至	自 昭和59年10月1日 至 昭和61年9月30日
"	教 授	内科学講座 (第二内科)	三 村 悟 郎	自 昭和60年10月1日 至 昭和62年9月30日
工 学 部	助 教 授	建設構造学	森 下 陽 一	自 昭和61年4月1日 至 昭和63年3月31日
"	助 教 授	電子・情報 基 礎 学	仲 尾 善 勝	自 昭和60年4月1日 至 昭和62年3月31日
農 学 部	助 教 授	農 産 施設工学	秋 永 孝 義	自 昭和61年5月1日 至 昭和63年4月30日
"	助 教 授	育 種 学	佐 藤 茂 俊	自 昭和60年4月1日 至 昭和62年3月31日
教 養 部	教 授	法 学	垣 花 豊 順	自 昭和61年4月1日 至 昭和63年3月31日
"	教 授	文 学	仲 程 昌 徳	自 昭和61年4月1日 至 昭和63年3月31日
短 期 大 学 部	教 授	文化人類学	比 嘉 政 夫	自 昭和61年4月1日 至 昭和63年3月31日
"	助 教 授	機械材料及 び機械工作	屋 良 秀 夫	自 昭和61年4月1日 至 昭和63年3月31日

附属図書館事務組織の変更について

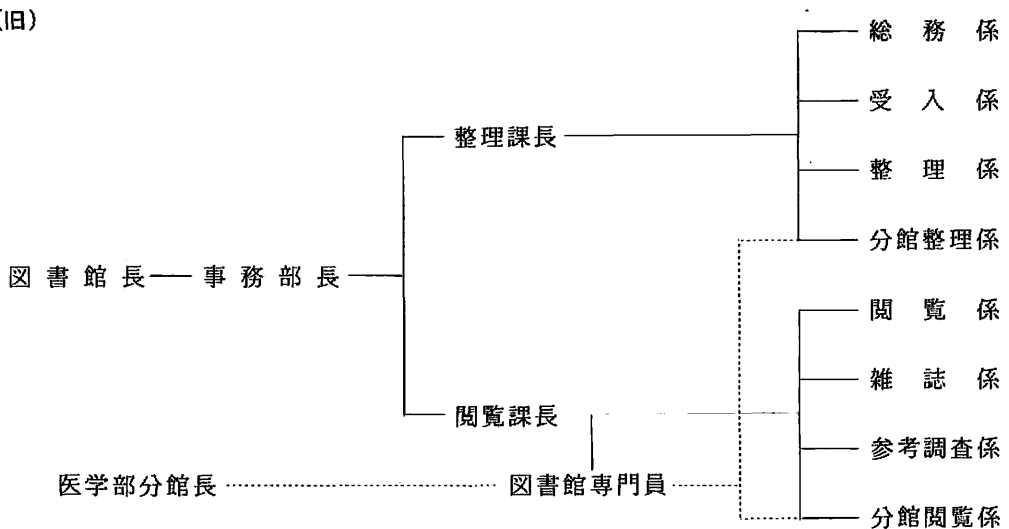
昭和61年4月1日から附属図書館事務組織の一部が変りました。閲覧課雑誌係を改組し、新たに学術情報係を設置しました。新旧事務組織図は次のとおりです。

〔事務組織図〕

(新)



(旧)



担当業務の変更について

組織の改組に伴ない、以下のとおり係業務の変更があります。

○雑誌・国際資料 (Unesco, OECD, EC, UN) について

- (1) 購入・受入業務は受入係 (2135・1階) へ
- (2) 閲覧・複写サービスは参考調査係 (2145・3階) へ
- (3) 貸出・返却業務は閲覧係貸出カウンター (2142・2階) へ

○文献情報検索サービス (JOIS・DIALOG) について

- (1) 従来、参考調査係が実施していた文献情報検索は学術情報係へ移行しました。(2146・3階)

○新設の学術情報係においては次の事務をつかさどる。

- (1) 学術情報処理についての企画及び立案に関すること。
- (2) 図書館業務の電子計算機処理に必要なシステムの開発に関すること。
- (3) 電子計算機の運用及び保守に関すること。
- (4) 情報検索に関すること。
- (5) 所掌事務の調査報告に関すること。
- (6) その他学術情報の処理に関すること。

○参考調査係及び学術情報係の事務室は3階の旧雑誌係の後へ移設致しました。

内線電話番号

参考調査係長	2143
参考調査係	2145
学術情報係長	2146
学術情報係	"

ブラウジングコーナー

困るよねー

真夏の太陽のもとを急いで来たらしい学生が、クーラーが全然効いていません。もっと涼しくなるようにしてくださいという。しばらくして朝から静かに勉強していた学生が、図書館のクーラーは効きすぎて、もう少し経済的にしたらどうかと忠告してくれた。学生の言うことは、至極もったもなことはわかりなのですが、1日に1,000人以上の学生が図書館に入館するので、学生個人個人を重視したいのですが、どうもねー。

わが広くない庭さきで、ハブを見つけて、近所に住むハブ取り名人にその捕獲を依頼した。早速駆けこんできて、くだんのハブを見て、名人が申しました。「小さすぎるよ、もう少し大きくしてから捕ろうね。」

(閲覧課 T. Y)

利用規程の制定

図書館の千原キャンパス移転後、閲覧業務の電算化、諸設備等の充実により閲覧規程が実状はそぐわなくなったので、昭和57年以来検討を重ね、図書館運営委員会の議を経て、名称も「利用規程」と改め昭和61年4月1日付で制定の運びとなった。

琉球大学附属図書館利用規程

(昭和61年4月1日)
制 定

(趣 旨)

第1条 この規程は、琉球大学附属図書館規則第8条の規定に基づき、琉球大学附属図書館（医学部分館を除く。以下「本館」という。）の利用に関し、必要な事項を定める。

(利用者)

第2条 本館を利用することができる者は、琉球大学（以下「本学」という。）の職員、学生及び附属図書館長（以下「館長」という。）が特に認めた者とする。

(開館時間等)

第3条 本館の開館時間は、次のとおりとする。ただし、館長は、必要があると認めたときは、開館時間を変更し、又は閉館することができる。

曜 日	開 館 時 間
月曜日から金曜日まで	8時30分から21時まで (春季、夏季及び冬季休業期間中は8時30分から17時まで)
土 曜 日	8時30分から17時まで (春季、夏季及び冬季休業期間中は8時30分から12時30分まで)

(休館日)

第4条 本館の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。ただし、館長は、必要があると認めるときは、臨時に開館することができる。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する日
- (3) 開学記念日（5月22日）
- (4) 12月29日から翌年1月3日まで

(利用者の遵守事項)

第5条 本館の利用者（以下「利用者」という。）は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 入館するときは、身分証明書又は学生証を携行すること。
- (2) 図書館資料は、所定の場所で閲覧すること。
- (3) その他係員の指示に従うこと。

(貸出し)

第6条 図書館の貸出しを受けることができる者は、本学の職員、学生及び館長が特に認めた者とする。

- 2 貸出図書の数及び期間は別表のとおりとする。
- 3 前項の規定にかかわらず館長は、春季、夏季及び冬季休業期間中においては、長期貸出しを行うことができる。
- 4 館長は、前項の規定にかかわらず必要と認めたときは、貸出し期限内であっても返却を求めることができる。

(貸出禁止)

第7条 次の各号に掲げる図書館資料の貸出しは行わない。ただし、館長が特に許可した場合は、この限りでない。

- (1) 貴重書
- (2) 辞書、法令集等の基本参考図書
- (3) マイクロ資料等
- (4) 特に館長が指定した資料

(図書の返却)

第8条 借用中の図書は、返却期限内に返却しなければならない。

第9条 利用者は退職、休職、転任、卒業、休学又は退学の時は直ちに借用中の図書を返却しなければならない。

(図書館資料の複写)

第10条 図書館資料の複写利用については、琉球大学附属図書館文献複写規程の定めるところによる。

(参考調査)

第11条 利用者は、次の各号に掲げる参考調査を依頼することができる。

- (1) 学術文献の書誌的調査
- (2) 学術雑誌の所在調査
- (3) 研究機関・研究者等の調査

(相互利用)

第12条 利用者は、教育、研究及び学習の必要がある場合、他の図書館等が所蔵する図書館資料利用のあっせんを依頼することができる。

第13条 館長は、他の図書館等から図書館資料の利用について依頼があったときは、支障ないかぎり利用させることができる。

(施設等の利用)

第14条 次の各号に掲げる施設設備を利用しようとする者は所定の手続により館長の許可を得なければならない。

- (1) 教官閲覧個室
- (2) 演習室
- (3) 視聴覚室
- (4) 語学研修室
- (5) マイクロリーダー室

(弁償)

第15条 利用者は、当該図書館資料及び施設等を汚損し、破損し又は遺失した時は弁償しなければならない。

(利用の制限)

第16条 館長は、この規程の定め違反した者に対しては、本館の利用を制限又は禁止することができる。

(補則)

第17条 この規程に定めるもののほか、利用に関し、必要な事項は館長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、昭和61年4月1日から施行する。
- 2 琉球大学附属図書館閲覧規程（1963年6月29日理事会制定）は廃止する。

別 表（第6条第2項関係）

利用者区分 図書区分	職 員	大学院生、研究生、 専攻科生	学部学生、聴講生、 その他
供 用 図 書	20 冊	10 冊	5 冊
指 定 図 書	0	3	3
沖 縄 関 係 開 架 図 書	2	2	2
ア メ リ カ 研 究 図 書	3	3	3
合 計	25	18	12

- 1. 貸出期間は10日間とする。ただし長期貸出期間は春季、夏季及び冬季休業に入る10日前から休業終了の10日後までとする。
- 2. 本学職員及び学生以外の者に対する図書貸出しは、学外者利用細則の定めるところによる。

図 書 館 事 情

〔第167回図書館運営委員会〕

日 時：昭和61年5月8日（木）13：30～

場 所：図書館会議室

- 議題1. 運営委員会の開催日程について
2. 「教官研究用図書貸出細則」（案）について

報告事項

1. 学術雑誌見直し検討委員会（第3回）
2. 沖縄研究資料調査収集小委員会（第11回）
3. 計算センター運営委員会
4. 事務分掌規程の一部改正について
5. 業務電算化について
6. 「志喜屋記念図書館」銘板披露会について
7. 国連寄託図書館について
8. 九州地区国立大学図書館協議会（第16回）

〔出 張〕

昭和61年3月11日（火）整理課長・尾崎一雄

国連寄託図書館の実情調査及び東大文献情報センターとの接続に関する打合せ、東京・13日まで

昭和61年3月18日（火）整理係長・新城安善

図書館資料の整備状況調査、熊本・20日まで

昭和61年3月24日（月）事務部長・前田正三

文部省と事務打合せ、国連広報センター及び外務省と国連寄託図書館に関する打合せ、東京・26日まで

昭和61年3月25日（火）附属図書館長・國府田佳弘

国連広報センター及び外務省と国連寄託図書館に関する打合せ、東京・27日まで

昭和61年3月28日（金）参考調査係長・仲西盛秀

沖縄関係の資料調査、久米島・29日まで

昭和61年4月24日（木）附属図書館長・國府田佳弘・事務部長・前田正三・閲覧課長・山田勉

第16回九州地区国立大学図書館協議会及び第37回九州地区大学図書館協議会総会出席、福岡・26日まで

昭和61年5月12日（月）学術情報係長・本郷清次郎

昭和61年度国立学校事務電算化基幹要員研修会出席、山梨県南部留郡・23日まで（12日間）

昭和61年5月20日（火）事務部長・前田正三・整理課長・尾崎一雄

昭和61年国立大学附属図書館事務部課長会議出席、東京・22日まで

〔来館者〕

昭和61年3月24日（月）アセアン研修生7人

昭和61年3月24日（月）東京大学文献情報センター、西口仁典総務主任・小山修美事務官

昭和61年3月25日（火）東京大学文献情報センター、井上如教授・大山敬三助手

昭和61年3月26日（水）文部省学術国際局学術情報課酒井和 庶務係長・清野義信事務官

昭和61年4月7日（月）ジョージ・H・カー先生

昭和61年5月21日（水）防衛大学校浅野芳正図書館長

昭和61年5月26日（月）Kadena AB Library Ms. Nova C. Mapdox (Chief Librarian),
Carol J. Castiglion (Assistant Librarian), 我那覇雪子

〔人事異動（昭和61年4月1日付）〕

整理課医学部分館整理係長・豊平朝美・整理課受入係長より

閲覧課閲覧係長・宮島恵曠・閲覧課雑誌係長より

整理課受入係長・松原敏夫・閲覧課閲覧係より

閲覧課学術情報係長・本郷清次郎・整理課整理係より

整理課総務係・玉城実・短期大学部学務係より

整理課受入係・平田武・閲覧課雑誌係より

整理課受入係・棚原淳治・整理課総務係より

閲覧課参考調査係・慶田恭二・医学部管理課用度第二係より

閲覧課学術情報係・金城守・整理課医学部分館整理係より

整理課整理係・岡本淳子・新採用

閲覧課雑誌係・村吉政明・理学部・工学部会計係会計主任へ

整理課総務係・真志喜得永・医学部管理課用度第一係へ

整理課受入係・赤嶺久夫・医学部管理課用度第二係へ

〔その他〕

沖縄県大学図書館協議会研修会

昭和61年3月13日（木）15：00～

講演者：琉球大学附属図書館整理課 本郷清次郎

演題：大学図書館業務の電算化について

医学部分館コーナー

金城分館長再任

任期満了にともない、医学部では次期分館長の選考が行なわれ、次期分館長には引き続き金城清勝教授（生理学）が再任されました。なお、分館運営委員会委員は次のとおりです。

医学部分館運営委員会委員

昭和61年4月1日現在

職名	専攻	氏名	任期
分館長	生理学教授	金城清勝	自 昭和61年4月1日 至 昭和63年3月31日
委員	解剖学教授	田中重徳	自 昭和61年4月1日 至 昭和63年3月31日
委員	ウィルス学教授	福永利彦	自 昭和61年4月1日 至 昭和63年3月31日
委員	内科学教授	三村悟郎	自 昭和61年4月1日 至 昭和62年9月30日
委員	整形外科学教授	茨木邦夫	自 昭和61年4月1日 至 昭和63年3月31日
委員	耳鼻咽喉科学教授	野田寛	自 昭和61年4月1日 至 昭和63年3月31日
委員	基礎保健学教授	加納隆至	自 昭和59年10月1日 至 昭和61年9月30日
委員	保健管理学教授	崎原盛造	自 昭和61年4月1日 至 昭和63年3月31日
委員	保健医学教授	河野伸造	自 昭和61年4月1日 至 昭和63年3月31日

ビデオ資料の利用案内

医学教育や研究になくてはならないのがビデオ資料ですが、昭和60年度の医学科創設設備費により次のような資料が購入されましたので御利用下さい。なお、No.32、33はスライド、44、45はディスクです。

1. ベーター遮断薬：新用法・新適応(16分)
2. 心血管系におけるカルシウムブロッカー
(17分)

3. 高血圧：管理の展望(52分)
4. 冠動脈疾患の新しい治療(17分)
5. 中毒症候群：中毒の実用的指針(50分)
6. 自己免疫性甲状腺疾患の臨床的アプローチ(50分)
7. 糖尿病：コントロール運動療法・妊娠の進歩(50分)
8. 糖尿病の現在：家庭での血糖モニタリング(15分)
9. ：病態生理と治療(18分)
10. 大腸癌：早期発見技術(20分)
11. 胆石：診断と治療の最新のアプローチ(11分)
12. 腸管の炎症性疾患：臨床像と患者の予後(46分)
13. 抹消神経症状の臨床診断(17分)
14. 肥満の管理(19分)
15. 血管炎の臨床的特徴(52分)
16. 家庭での血液透析(16分)
17. 喘息：アレルギー その他(52分)
18. むずかしい肺炎 Part 1. 特徴的所見(34分)
19. Part 2. 日和見感染
20. 肺癆：共通の反応性(52分)
21. 慢性閉塞性肺疾患の治療(47分)
22. 超音波：診断用エコー(48分)
23. 尿路結石：広範な治療の試み(13分)
24. 放射線医学ビデオシリーズ 全9巻
25. 吸収不良症候群(14分)
26. 消化性潰瘍の治療 PART 1 PART 2
27. 熱帯病：診断上の難題(17分)
28. 心電図の読み方 全4巻
29. 心エコー図診断のコツ 全3巻
30. 腹部疾患超音波診断のコツ 全3巻
31. 超音波画像抽出のコツ 全3巻
32. 血液学会卒後研修用サウンドスライド集 No 1-13
33. 日本肝臓学会サウンドスライド集 No 1、4-6、9-14
34. 思春期精神医学：病的行動と成長過程の鑑別(51分)
35. 幼児の健康管理の発育的見地からのアプローチ(52分)
36. 組換え型DNAと臨床的進歩(17分)
37. 急性白血病とプライマリーケア医(18分)
38. 急性骨髄性白血病：診断(15分)
39. 後天性免疫不全症候群 AIDS(18分)
40. 新生児学：生存率を上げる5つの方法(16分)
41. アルコール中毒症の診断と患者管理(40分)
42. 発育障害児の診察(27分)
43. 医学英語基礎講座 産婦人科 泌尿生殖器系骨格系 臓器系 心血管系 呼吸器系 消化器系
44. 医用画像診断技術シリーズ 全5集
45. 血液学 病理学 診断学

分 館 事 情

〔第12回運営委員会〕

日 時：昭和61年4月21日（月）16：00～

場 所：医学部分館会議室

議 題：新委員との意見交換及び諸問題について

- 報告事項：1. 視聴覚機器の設置について
2. バックナンバー及びビデオ資料の受入について
3. 国試対策図書のコナー設置について
4. 医学基本図書（洋書）の受入について
5. 昭和62年度概算要求について
6. 文献の所在情報検索サービスについて
7. 利用状況について
8. 医学部分館運営委員会議題及び報告事項

〔第13回運営委員会〕

日 時：昭和61年5月26日（月）16：00～

場 所：医学部分館会議室

議 題：購入学術雑誌の増加について

報告事項：昭和60年度執行状況について

— 夏休み期間の開館について —

7月8日（火）まで夜間開館を行ないます。

7月9日（水）～8月30日（土）

月～金 午後5時まで

土 午後12時半まで

9月1日（月）から平常通り夜間開館を行ないます。

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第19巻 第2号〔通巻第71号〕

昭和61年6月2日 発行

発行 琉球大学附属図書館 沖縄県西原町千原1番地

電話（09889）5-2221 内線（2143） 編集 びぶりお編集委員会